

剣道・居合道の目的 [川島次郎記録帳]

- ・ 社会的活動をするに当って最も必要な健全なる「精神の鍛錬」「身体の錬磨」
- ・ 技術の練達は上記の為の手段なり
- ・ 「滅私奉公」「尽忠奉国」「生死を明らかにする剣を以って人を斬るは一殺…多生也」
それは最後の手段であり目的では無い
- ・ 暴を禁じ民を安ずべき「仁義」の行為
- ・ 「忠君愛国」の思想「忠孝」の大義、所謂「武士」の魂ものふ
- ・ 道場に於いて鍛錬せる精神を実生活に応用する
- ・ 「正」と「誠」とは車の両輪の如し、如何なる場所に於いても日本人たる体面を保ち
大和魂の真価を充分に發揮できる人物を作る
- ・ 「自己人格の完成」
- ・ 「八紘一字」の皇道精神を具現する

自衛の効果・剣道の効果

- ・ 文化の発達と「攻防の術」と相反する様に思う人は大なる誤り也
- ・ 地球の面積は縮小するも大ならず、人は年とともに増加する。生は競争激化し、最も露骨に表れたものが闘争である。攻防の術の優れた者が勝利する

肉体的効果

- ・ 全身運動——円満発達
- ・ 胸部の運動——肺臓・心臓——強健
- ・ 血行促進——身体軽捷——敏活
- ・ 屈筋よりも伸筋を多く活用する
- ・ 高齢に至るまでも実施できる。
- ・ 少ない時間で充分の価値を挙げ宇ことが出来る

精神的効果

- ・ 「忠君・愛国」の観念が確実になる — 古来よりの伝統的思想 [武士的人格]
国民の道徳観念が明らかになる
- ・ 剛毅果斷 — 必勝の信念 — 道場の捨て身の稽古が習慣性となり恐れぬ
「身を捨ててこそ浮かぶ瀬もあれ」
- ・ 端正謙讓 — 道場に於ける師・長に対する礼 — 厳格なる礼儀作法
- ・ 堅忍持久 — 苦しい稽古の結果何事にも耐えうる意志の力 — 心身の鍛錬等により
- ・ 克己心の養生 — 悪心・邪心 王陽明「山中の賊は斬るに易し心中の賊は斬るに難し」
- ・ 自信沈着 — 技進み — 身体頑健
- ・ 周到線密 — 戦う為の周到な準備 — 性となり — 道具の着け方・試合前の注意

- ・公明正大 — 試合の約束・審判の結果
- ・共同自治 — 小我を捨てる所に真の共同生じ、自分の事は自分で治める「独立独行」
- ・教えを受けた師には終生恩愛を感じずべし

道徳的効果

- ・剣道は強烈なる道徳的信念也
- ・戦う為でなく、勝つ為でなく、死を軽んじ義を重んずる
- ・剣は鞘に有るときは其の威徳絶大であるが、抜けば靈徳少なし
- ・武備^{ぶひ}有るが故平和が有る
- ・武備は平和を保つ為であって戦闘が目的ではない
- ・治に居て乱を忘れぬ心。乱を忘れた時、既に乱世が目前に迫った時である
- ・英国 — フットボールで — ゼントルマンの気風を
- ・独逸 — 独逸式体操にて — ドイツ魂を
- ・米国 — ベースボールで — 正々堂々・公明正大の精神を